

## 2回目バルク乳検査の成績について



平成30年10～11月に実施した2回目のバルク乳検査（酪農生産性向上対策事業）では、採材等にご協力頂きありがとうございました。

51戸(53検体)で実施した検査の集計結果をお知らせします。

陽性農家 51%

### 黄色ブドウ球菌(SA)

伝染性乳房炎の原因菌

対策：SA排菌牛の淘汰や隔離、  
最後搾乳、乾乳期治療の  
徹底等

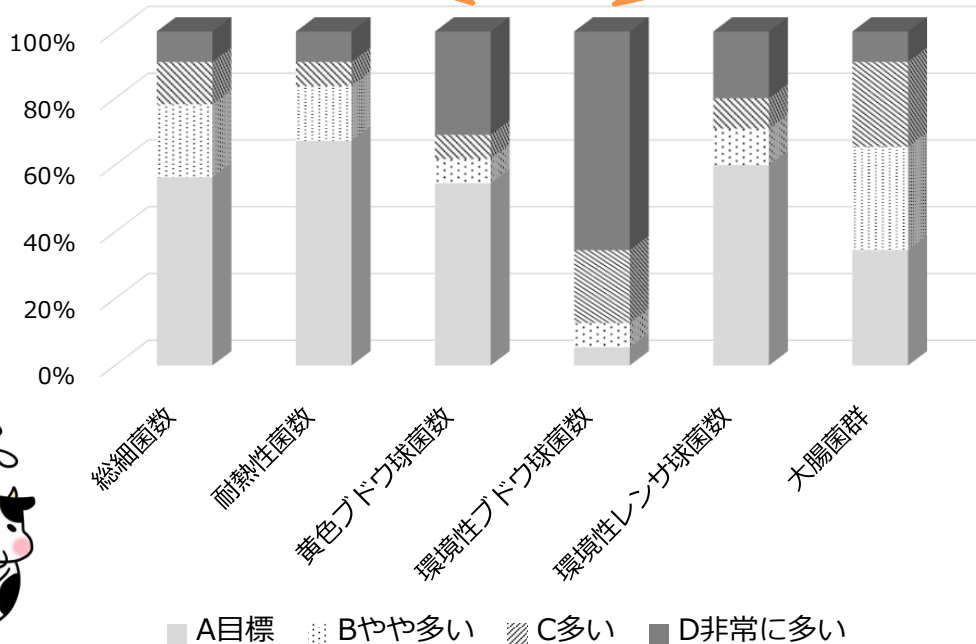
Dランク 55%

### 環境性ブドウ球菌

環境性乳房炎の原因菌

対策：乳頭清拭の適切な実施  
搾乳手順の再確認  
搾乳機器洗浄の再確認  
牛床を乾燥させる等

各細菌数のランク別農家の割合



- ◎無乳性レンサ球菌は全検体で分離されませんでした。
- ◎マイコプラズマは全検体で検出されませんでした。
- ◎BVDウイルス遺伝子は2戸で検出されましたが、

当該農場全頭の遺伝子検査の結果、持続感染牛（PI牛）は確認されませんでした。一過性の感染と思われます。なお、当該農場から出生する牛については遺伝子検査で陰性を確認しています。

- ◎昨年同時期と比べ上記全ての菌数が増加しました。衛生的な搾乳を心がけましょう。

SA排菌牛の特定等詳細は  
家畜保健衛生所まで  
ご連絡ください

# 管内のウベリス浸潤状況

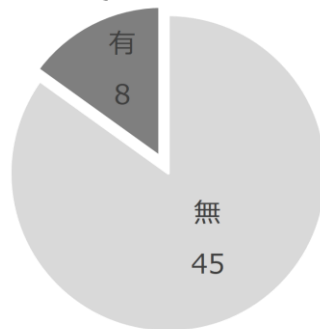


- ストレプトコッカス ウベリス（以下、「ウベリス」）とは？
- ストレプトコッカス属の環境性レンサ球菌で牛床や牛体等に存在。
- 牛床や牛同士の直接接触、搾乳時に乳汁を介して伝搬。
- 再発を繰り返す難治性の乳房炎を引き起こし、近年問題。
- 治療には通常の倍の期間の抗菌剤投与（3日→6日）等が必要。

平成30年5～6月に実施した1回目のバルク乳検査と10～11月に実施した2回目のバルク乳検査に併せてウベリスの浸潤状況調査を実施しました。その結果、1回目では管内53戸の酪農家のうち8戸から、2回目では49戸の酪農家のうち8戸のバルク乳からウベリスが分離されました。

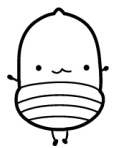
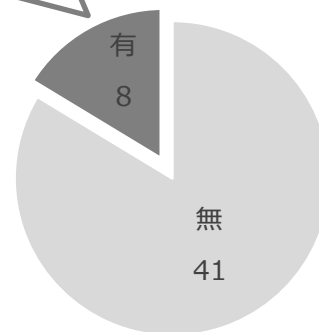
8戸からウベリスが  
分離されました！

1回目



8戸からウベリスが  
分離されました！

2回目



また、平成30年度前期生乳生産に係る記帳の確認のための巡回に併せて実施した聞き取り調査において、プレディッピングを実施している酪農家ではウベリスが分離されませんでした。

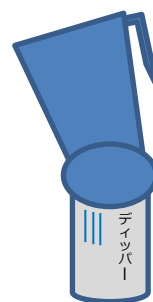
プレディッピング\*1

未実施 実施

ウベリス無 17 22

ウベリス有 7 0

P値\*2 0.01



プレディッピングを  
実施しましょう！

\*1 53戸中48戸で調査 \*2 フィッシャーの正確確率検定

ウベリスを含め環境性細菌の乳房炎を防ぐために、  
プレディッピングを実施しましょう。

お問い合わせ：保健衛生課 宮澤隆(課長) 中島博美 森野なつ樹 袴田由美 金子文大(担当)